



2026年5月7日

各位

会社名 水道機工株式会社  
 代表者 代表取締役社長 古川 徹  
 (コード番号 6403)  
 問合せ先責任者 取締役副社長 丸山 広記  
 (TEL 03-3426-2131)

2026年3月期通期連結業績予想数値と実績値との差異の発生（経常利益の増加）、  
 営業外収益及び特別損失発生に関するお知らせ

2026年2月5日に公表いたしました通期連結業績予想数値と、本日公表の実績におきまして差異が生じており、当該差異内容並びに2026年3月期決算内容について以下の通り、お知らせいたします。

記

1. 2026年3月期連結業績予想と実績との差異  
 (2025年4月1日～2026年3月31日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	30,000	1,600	1,900	1,200	279円71銭
実績 (B)	31,209	2,044	2,488	1,228	286円86銭
増減額 (B-A)	+1,209	+444	+588	+28	7円15銭
増減率 (%)	4.0%	+27.8	+31.0	+2.4	—
(ご参考) 前期実績 (2025年3月期)	25,966	1,479	1,376	427	99円75銭

2. 連結業績予想との差異理由

(1) 売上高及び営業利益

当社グループのプラント建設並びにO&Mセグメントともに、工事出来高並びに完工が増加し、採算改善も進んだため売上高及び営業利益が増加いたしました。

(2) 経常利益

営業利益の増加に加えて、営業外収益として持分法適用関連会社であった Suido Kiko Middle East 社（以下、SKME 社）に関して、顧客からの回収が進んだことから持分法による投資利益を計上するとともに、株式追加取得（以下、本株式追加取得）に係る取得後の評価結果を持分法による投資利益並びにのれんに対する減損損失として特別損失に区分して計上した結果、増加いたしました。

(3) 親会社株主に帰属する当期純利益

SKME 社につきましては、2026年3月期連結決算において本株式追加取得を行ったことに伴いのれんが発生しており、加えて取得後の評価結果を加えたのれんに対して減損損失9億29百万円を特別損失として計上いたしました。また、法人税等に関しては、前回予想に比べて課税所得が増加したことから税金費用として増加（損失）となりました。

### 3. 2026年3月期通期業績の前期比変動について

#### (1) 売上高及び営業利益の増加について

##### 連結決算及び個別決算

2026年3月期連結決算における売上高は、グループ全体で312億9百万円（前期比20.2%増）と前期比で増加となりました。セグメント別の主な要因として、プラント建設において高水準の手持受注残高に対して工事施工・引き渡しを行い工事出来高進捗並びに工事完工が堅調に推移し、またO&Mにおいて運転管理新規受託やメンテナンス案件の前期受注増に伴う収益計上増加の結果、前年同期比で増加しました。

損益の状況については、プラント建設並びにO&Mでの増収により売上総利益が増益となったことに加えて採算改善が進み、販売費及び一般管理費での事業拡大のための要員拡充等による人件費増加があったもののこれらを吸収し、営業利益は20億44百万円（前期比38.2%増）と前期比で増益となりました。なお、個別決算での変動状況は、売上高199億38百万円（前期比+22.6%）、営業利益17億63百万円（前期比+112.2%）となりました。主な要因としては、前述の連結業績としてプラント建設セグメントで記載した内容の通りとなります。

#### (2) 営業外収益及び特別損失の計上と連結業績等への影響について

前述の通り2026年3月期連結決算において、営業外収益として持分法適用関連会社であったSKME社に関して、顧客からの回収が進んだことから持分法による投資利益を2億38百万円計上した一方で、SKME社の連結子会社化に伴いのれんが発生し、こののれんに対する減損損失9億29百万円を特別損失として計上しております。

なお、個別決算においては、SKME社株式に対して投資有価証券評価損として11億84百万円を特別損失として2026年3月期において計上しております。

この損失の発生に関する経緯等の詳細につきましては、2025年7月24日付公表の「持分法適用関連会社の追加株式取得（子会社化）及び関連する営業外費用計上について」をご覧ください。

以上